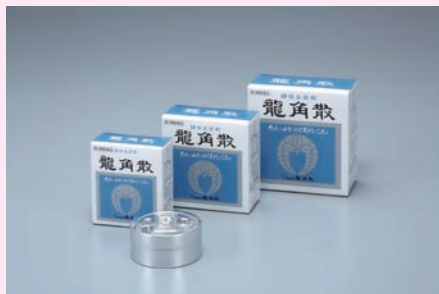


健康食品・医薬品



株式会社北海道バイオインダストリー（北海道）
株式会社龍角散（東京都）
iPSアカデミアジャパン株式会社（京都府）

JITSUBO株式会社（東京都）
富士化学工業株式会社（富山県）
株式会社東洋新薬（福岡県）

株式会社北海道バイオインダストリー (北海道札幌市)

＝アグリ・エコインダストリーの実現を目指す大学発バイオベンチャー＝



- 道内農産物の機能性を知財で裏打ちし、高付加価値を持たせた食品を提供
- コア技術を強みに大手食品卸企業と専売契約を締結し、全国への販路を拡大
- 強いブランド力を持って、真に健康づくりに役立つ製品を北海道の地から発信

1. 道内農産物の機能性を知財で裏打ちし、高付加価値を持たせた食品を提供

株式会社北海道バイオインダストリーは、北海道産バイオマス資源を活用した生活習慣病予防食品及び健康食品の開発・製造を行うバイオベンチャー企業である。北海道東海大学（現・東海大学）の教授らの研究成果を事業化すべく、北海道第1号の大学発バイオベンチャーとして1997年に設立。自然に恵まれた北海道には600種類以上の野草が自生していると言われ、古くから身体に良いとされる野草・野菜が数多く、創業当初は北海道の特徴的なネギ属植物であるギョウジャニンニクの研究と製品開発や多機能性消臭剤の開発を行っていた。健康成分を有する北海道農産物の高付加価値化を図るには、「これまで言い伝えて“身体に良い”とされてきたことを、現代科学できちんと裏づけし、知財によって裏打ちしなければ競争できない」という考えがベースにあった。

その後、タマネギやヤーコン、チコリー等といった道内の農産物や、アロニア等の小果樹の研究へと発展し、サプリメント等の「健康食品」、あるいは機能性という付加価値を持たせた「健康食材」、また近年では機能性と美味しさを兼ね備えた新しいカテゴリーの「コンディショニング食品」を開発・提供している。

2. コア技術を強みに大手食品卸企業と専売契約を締結し、全国への販路を拡大

主力商品は、抗酸化作用があるタマネギのDPTS(揮発性含硫化合物)に着目し商品化した、機能性と美味しさを両立した「北海道タマネギドレッシング」である。同社のコア技術である「ネギ属植物処理物（BRC製法）」と、この製法によりタマネギから大量に生成されるDPTSの応用となる「記憶障害改善作用を有する組成物」という2つの特許技術を用いており、BRCタマネギのペーストなどを開発し、野菜ソムリエや老舗醤油メーカーと共に試作を重ねて商品化した。製造プロセスのノウハウ秘匿化により他者では再現できないと自信を持つこの商品は、2012年7月の発売時から予想をはるかに上回る出荷数を獲得し、現在では月1万本以上を出荷している。

2015年1月には、全国の量販店に販路を持つ東京の大手食品卸企業と専売契約を締結し、「BRC製法」を活用したコンディショニング調味食品「北海道深み玉葱ドレッシング」を発売。流通に適さないとされる規格外の道産タマネギを使い、価格をギリギリまで抑えた専売商品で、年間70万本の出荷を目指している。

3. 強いブランド力を持って、真に健康づくりに役立つ製品を北海道の地から発信

ブランド戦略としては、社名より市場に馴染みやすいとの判断から、同社及び系列グループのコミュニケーションネームである「BIO DO（バイオドゥ）」を前面に打ち出すことを推進するとともに、基本特許の「BRC」についても、商品の統一ブランドとして大々

的に展開している。加えて、2013年度から実施されている北海道食品機能性表示制度（ヘルシーDo）に関しても、先を見据え積極的に活用しており、2014年2月にはポリフェノールの吸収率が高いオリゴノールをプラスした「プレミアム北海道タマネギドレッシング オリゴノールプラス」が認定され同年3月に発売を開始するなど、今後はアジア市場も視野に大いにPRしていく方針だ。

創業から変わらない思いは「北海道の農産物が持つ力を最大限に引き出し、真に健康づくりに役立つ製品を、北海道の地から発信する」こと。そのため同社では、北方冷涼地における稀少野草や野菜の栽培試験から機能性の賦活化を高めるための加工法の確立、さらには製品開発から販売までと、生産・加工・流通を一貫して行うアグリ・エコインダストリー（農業生態産業）の実現を目指している。

【株式会社北海道バイオインダストリーの商品例】



機能性ドレッシング 北海道タマネギドレッシングシリーズ

日本野菜ソムリエ協会主催 調味料選手権2012・2014
サラダ部門最優秀賞ドレッシングシリーズ

「北海道BRCタマネギ
ダイスカット」使用

NO.1
最優秀賞受賞
シリーズ

BRC
特許 BRC 製法

▲「北海道タマネギドレッシング」



▲「北海道深み 玉葱ドレッシング」 平成26年度北海道地方発表明彰 中小企業庁長官奨励賞受賞

●会社概要

名称及び代表者	株式会社北海道バイオインダストリー 代表取締役 村上 季隆		
本社所在地	北海道札幌市豊平区平岸7条14丁目3-43		
資本金	3,060万円	従業員数	12名（パート含む）
事業内容	道産バイオマス資源を活用した生活習慣病予防食品及び健康食品の開発・製造		
電話番号	011-812-2512		
URL	http://www.bio-do.co.jp/index.html		

JITSUBO株式会社 (東京都小金井市)

＝世界を舞台に成長する先進的研究開発型医薬品企業を目指すベンチャー企業＝



- 「高効率ペプチド製造技術」と「新規ペプチド創薬技術」の2つの特徴的な基盤技術開発
- 支援策の積極的な活用による知財体制の強化
- 新規ペプチド医薬品開発の海外展開と知財戦略

1. 「高効率ペプチド製造技術」と「新規ペプチド創薬技術」の2つの特徴的な基盤技術の開発

JITSUBO株式会社は、2005年に東京農工大で開発したペプチド類緑化合物の合成・分離技術に基づいて設立された大学発ベンチャー企業である。2000年、現在の社長が東京農工大学大学院時代に、同社の科学技術顧問である教授とともに実施した研究の成果として、基盤技術のプロトタイプとなる分離精製技術を発見。同社の強みは、まず基礎となる「高効率ペプチド製造技術 (Molecular Hiving™)」とその基礎技術の特徴を生かした「新規ペプチド創薬技術 (Peptune™)」の2つの革新的なペプチド合成基盤技術を確立し、特許権を保有していることである。

「高効率ペプチド製造技術 (Molecular Hiving™)」は、従来のペプチド合成技術である「固相合成法」と「液相合成法」の2つの利点を併せもつ新世代ペプチド合成技術であり、従来技術に比較し圧倒的な高品質、低コストで原薬品製造を実現できる (特許権取得)。2つ目の「新規ペプチド創薬技術 (Peptune™)」は、「高効率ペプチド製造技術 (Molecular Hiving™)」を確立することにより、これまでのペプチドの複雑な修飾が可能となり、修飾されたペプチド分野・製品で生産規模の拡大へとつなげることが容易となる技術である。

2. 支援策の積極的な活用による知財体制の強化

創業当時の同社は、知財に関する知識や経験について十分といえない状況であったため、2008年に関東経済産業局特許室が実施した「知財戦略コンサルティング事業」に参加。既に保有する合成技術によってペプチドの価値が高まっていたが、知財を活用した新たなビジネス展開を模索していた。そこで同事業において、同社の事業を取り巻く業界構造・特許出願動向の調査・分析により、新たなビジネスモデルの確立、知財の位置づけの明確化、特許情報の活用を支援。企業との交渉に関する情報提供や共同開発を行う為のアクションプランのアドバイスを受け、大手医薬品メーカーと共同開発を締結してライセンス収入につなぐビジネスモデルを確立することができた。また、同社に蓄積された経験とノウハウが知財として十分に管理できていなかったことから、ノウハウの整理と可視化による研究開発等へのメリットと、「営業秘密」として管理することで情報漏えいへの保護を受けられる体制づくりのアドバイスも受けて、現在もノウハウ管理と活用が実施されている。

例えば、ペプチドの純度を高める合成方法などの貴重なノウハウに対しては、番号をつけた管理に加え、限られた社員だけが情報を取り扱うこととし、蓄積したノウハウの定期的な更新と研究開発時での再現性の有無などを検討。その結果は、文書に実施例の蓄積として管理をしている。

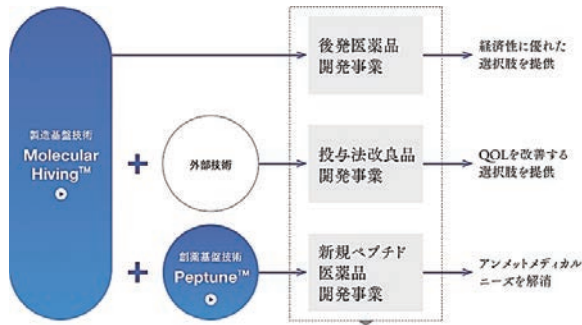
職務発明規程には、発明者への報奨金制度とともに営業秘密に関する取扱いに関しても

明記されており、入社・退職時にNDA（秘密保持契約）での対策も行っている。

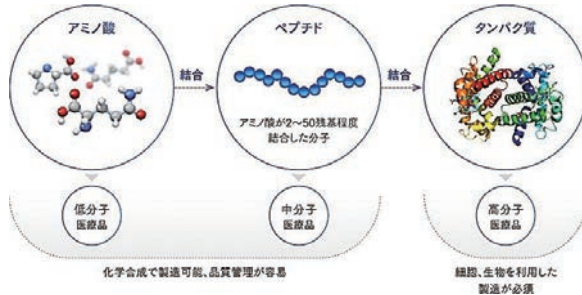
3. 新規ペプチド医薬品開発の海外展開と知財戦略

同社が保有する合成技術については、国内の権利化にとどまらず、海外において化学分野で頭角を現してきている国や、将来的に新薬を製造する拠点やライセンス契約をする可能性がある国など、現在4つの国・地域で特許権を取得している。また、従前から基礎評価や一部化学物質の製造を委託している国に対しても、周辺特許を含め戦略的に外国出願をすることも検討している。

【JITSUBO株式会社の事例】



（高効率ペプチド製造技術と新規ペプチド創薬技術により新しい価値を提供します）



●会社概要

名称及び代表者 JITSUBO株式会社 代表取締役CEO 河野 悠介

本社所在地 東京都小金井市中町 2-24-16

資本金 1億5,300万円

従業員数 12名

事業内容 ペプチド医薬品の開発、ペプチド原薬製造技術に関するライセンス、ペプチド創薬に関する研究を行う企業

電話番号 042-401-1721

URL <http://www.jitsubo.com/jp/>

株式会社龍角散（東京都千代田区）

＝手間を惜まず知財を巧く活用し、消費者のために第一に製品を作り続ける製薬メーカー＝



- 海外市場における差別化・優位性を保つには独自商品の開発成果やネーミングが重要
- 社内ルールの整備により製品開発の促進と情報の流出防止を徹底
- 利益よりも社会貢献をモットーに製品を開発

1. 海外市場における差別化・優位性を保つには独自商品の開発成果やネーミングが重要

株式会社龍角散は、医薬品（OTC部門、医療用医薬品部門）と食品（龍角散ののどすり飴等）の製造・販売を行う製薬メーカー。江戸時代末期にルーツを持つ歴史のある会社であり、現社長は8代目。「ゴホン！といえば龍角散」というほど、声と喉を守るイメージが多く消費者に根付いている。

同社では、経営陣のみならず、全社員が「龍角散」のパブリシティや伝統的ブランドを知的財産権で護ることの必要性を十分に理解している。特に、オリジナル性の高い主力商品は、開発の成果やネーミングが海外市場における差別化や優位性を保つ上で重要であることを認識しており、外国特許及び外国商標を積極的に取得している。

同社の経営方針は、商品を作る手間と売の手間を惜まず、知的財産を巧く活用し、利益ではなく消費者の役に立てることを第一に製品を作り続けること。医薬品やサプリメントの嚥下を補助する製品のポリシーは、医薬品の添加物として認められた成分のみを使用すること、喉の専門メーカーとして、飲み込む行為も安全に安心して行えること、主役の医薬品の効果を妨げないことであり、それらが特許化の特徴でもある。販売は、初めに最も難易度が高い、しかし最も必要性のある嚥下困難者向けとし、その後、幼児や子供、そして健常者向けに展開している。このように、段階的にターゲットを拡大することで加えて、科学的検証を行うことで、医療従事者にも認められる製品へと育成することができ、安心と信頼のブランド力に繋がっている。

2. 社内ルールの整備により製品開発の促進と情報の流出防止を徹底

新製品開発は、知財・開発・経営の三位一体で行うことをポリシーとし、特許や商標が確実に製品をカバーするとともに、他社の模倣や追従を排除している。出願プロセスにおいては、出願のタイミングと請求の範囲の内容を開発の経過に一致させ、常に経営側・開発者・知財担当者が連携しており、後追い型の出願は行わない。

主力商品の一つである、服薬補助製品については、パテントマップを作成して製品群を漏れなく保護するための確認と将来の知財化戦略に活用している。業界の展示会や学会にも積極的に参加し、他社動向を研究するとともに模倣品の発生には特に目を光らせている。平成25年度は、服薬補助製品の商標権を侵害している業者に対して警告を行い、当該業者の商品パッケージを変更させている。

社内ルールとして、職務発明規程を整備しており、新製品の開発や新しいネーミングが生まれやすくする環境を整えている。また、伝統的なブランド製品「龍角散」や新市場を開拓した服薬補助製品などの独自商品やノウハウを数多く取り扱っていることから、営業

秘密管理規定の下、情報の流出防止を徹底している。

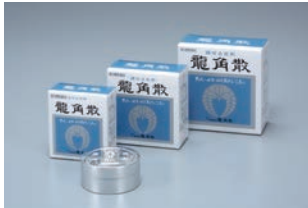
3. 利益よりも社会貢献をモットーに製品を開発

1998年に販売した服薬補助製品は、これまでの市場にない全く新しい商品。社内でも、開発に反対する役員が多かった中で、実際に介護施設で、食事に薬を混ぜて飲ませている現場を見た現社長が「のどの専門メーカーである当社の仕事」と、売れるかわからない状況であったが販売を決定した。世代を問わず服薬を容易にしたため、消費者より絶大な支持を得ることができた。累計販売数は5千万個を超えており、「日本薬剤学会製剤学奨励賞」「食創会安藤百福賞」「発明協会発明奨励賞」を受賞している。東日本大震災の被災地では、毎日、薬を飲まなければならない患者にとって水不足は重大であった。同社では、3万個の服薬補助製品を無償で提供し、社会に貢献した。

また、2013年3月には、秋田県美郷町と地域活性化包括連携協定を締結。キキョウなどの生薬の栽培を地域と連携して行い、日本製品の9割を輸入に頼っている生薬の国産化に取り組むとともに、それを龍角散が買い取ることで地域の活性化にも貢献している。現在は、「龍角散」に使われているキキョウ、「龍角散ののどすっきり飴」に配合されるハーブパウダーになるカミツレ（カモミール）が実際に商品に配合されており、今後も国産生薬の比率を高めていく。

【株式会社龍角散の商品例】

▶「龍角散®」



▶「らくらく服薬ゼリー®」



▶「龍角散ののどすっきり飴®」



▶「おくすり飲めたね®」（ピーチ味）



●会社概要

名称及び代表者	株式会社龍角散 代表取締役社長 藤井 隆太		
本社所在地	東京都千代田区東神田2-5-12		
資本金	6,000万円	従業員数	128名
事業内容	医薬品の製造販売、食品の販売		
電話番号	03-3866-1177		
URL	http://www.ryukakusan.co.jp/		

富士化学工業株式会社（富山県中新川郡上市町）

＝世界中の人々の健康づくりへ貢献できるよう挑戦を続ける医薬品メーカー＝



- 新しい製品・サービスを生み出すためにイノベーションを追求し世界No.1を目指す
- 製品ごとに戦略的に特許を取得することで他社の追従を許さない強靱な特許網を構築
- 大手が参入しない領域で高品質の医薬品を開発・製造するグローバルニッチトップ戦略

1. 新しい製品・サービスを生み出すためにイノベーションを追求し世界No.1を目指す

富士化学工業株式会社は、原薬・医薬の受託製造に加え、自社ブランドの賦形剤・医薬品の製造・販売及び機能性素材の原料製造・販売を行う医薬品メーカーである。医薬品製造業を地場産業とする富山県に本社・工場を構え、グローバルに事業展開している。

同社の事業は、原薬・医薬事業（治療）とライフサイエンス事業（未病）に大別される。原薬・医薬事業では、治療で健康を取り戻す医薬品の開発・製造に携わりながら、スプレードライ加工（噴霧乾燥させる造粒法により体内吸収を高める効果）技術による受託製造など、長年培った技術・ノウハウを活かした付加価値の高いサービスを提供。機能性を付加するスプレードライ加工において高度な技術と世界有数の設備を有しており（量産レベルでは世界で同社を含む2社のみ）、スプレードライ加工の受託製造サービスでは世界トップクラスのシェアを占めている。

ライフサイエンス事業では、予防医療やアンチエイジングの分野で注目され始めている天然アスタキサンチン（抗酸化成分）や原薬・医薬事業での製剤技術を活かしたバルクや健康食品の開発に取り組んでいる。1994年に世界で初めてヘマトコッカス藻由来の天然アスタキサンチンの商業的生産に成功し、2015年には米国ワシントン州で生産高を2倍にした工場を完成して世界中に安定した供給を続けている。

2. 製品ごとに戦略的に特許を取得することで他社の追従を許さない強靱な特許網を構築

「アスタリール®」は、同社が提供する天然アスタキサンチン原料のブランドである。アスタキサンチン関連の特許を数多く出願し、水溶性製剤、高濃度オイル、サプリメント、焼成食品といった製品ごとに戦略的に権利化することで、他社の追従を許さない強靱な特許網を構築。加速度的に伸びているライフサイエンス事業は、全て「アスタリール®」の開発・ブランド戦略によるものと言える。近年では、アスタキサンチンの健康増進作用に関するパテントマップを独自に作成し、高血糖、肥満、血管疾病など、生活習慣病の予防医学分野におけるアスタキサンチンの効果にターゲットを絞り、大学との共同研究を進めている。

新製品開発の際には、特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）や有料データベース、海外特許庁等のデータベース等による先行技術調査を必ず行う。知財担当者だけではなく開発担当者も行うことで、知的財産の重要性を理解することにつながっている。オリジナル製品である口腔内崩壊錠用賦形剤（水なしで溶ける錠剤）「エフメルト®」の開発にあたっては、その初期段階で口腔内崩壊錠用に関する約200件の国内外の先行技術を抽出・整理。

それら技術に関するパテントマップを作成した上で、開発の方向性を絞り込んで製品開発に着手した。

3. 大手が参入しない領域で高品質の医薬品を開発・製造するグローバルニッチトップ戦略

知的財産に対する意識は創業当時から根づいていた。1950年代に開発した賦形剤「ノイシリン®」は、米、英、独など6か国に製法特許を出願した。国内で販売されている胃腸薬のおおよそ半分は、同社のノイシリンが配合されている。知財部門は研究開発本部に設置され、担当者は開発部門出身者が歴任。経営企画部と連携しながら知的財産の創出・活用を専任で行っており、知財戦略の分析・構築や国内における大半の特許明細書の作成、意見書や拒絶理由通知への対応を行っている。特許出願はこの15年で250件程度、登録商標は現在70件である。

同社では、大手企業が参入しない領域での事業展開を基本とし、これまで培った技術を用いて高品質の医薬品を開発・製造し、排他・独占することを経営上の方針としている。主なターゲット市場である海外での権利化も重視しており、国内特許の約半数については、欧米を中心とした海外諸国でも権利化している。

【富士化学工業株式会社の事例】



▲「アスタリアル」のロゴマーク
「アスタリアル」を配合している製品には、安全・安心・高品質なアスタキサンチンの証として、必ず表示している。



▲「アスタリアル」の製品群

●会社概要

名称及び代表者	富士化学工業株式会社 代表取締役社長 西田 光徳		
本社所在地	富山県中新川郡上市町横法音寺55		
資本金	1億円	従業員数	425名
事業内容	医薬品の製造・販売、医薬原薬の受託合成・加工、食品添加物の製造・販売		
電話番号	076-472-2323		
URL	http://www.fujichemical.co.jp/index.html		

iPSアカデミアジャパン株式会社 (京都府京都市)

＝iPS細胞の研究成果を人類のために社会還元する特許ライセンス企業＝



- iPS細胞関連技術を広く普及させるための戦略的なライセンスを実施
- 明確なライセンスポリシーの策定・運用により特許等を幅広くライセンス
- 展示会への出展や企業団体への参画など関係機関との連携により更なる普及を目指す

1. iPS細胞関連技術を広く普及させるための戦略的なライセンスを実施

iPSアカデミアジャパン株式会社は、iPS細胞の研究成果を人類のために社会還元することを目指し、iPS細胞関連技術の医療分野等への活用・実用化の早期実現とこれらを広く普及させるべく、関連する技術の特許等を戦略的にライセンスすることを目的として、京都大学が保有するiPS細胞関連特許等の実施会社として2008年に設立された。医薬関係の特許は独占が多い中、iPS細胞関連技術を発明した京都大学の山中伸弥教授の考え方は「社会に還元」すること。自分の発明を独占するのではなく広く使ってもらいたいという思いが込められている。

設立当初は、京都大学のiPS細胞関連技術に関する特許等について再実施権付実施許諾を受け、ライセンス可能な特許ポートフォリオを構築。その後、京都大学以外の内外国の大学や研究機関等のiPS細胞関連技術に関する特許等についても同様に再実施権付実施許諾を受けるようになり、基本特許、改良特許及び周辺特許をセットでライセンスする方針に変更した。

大学等から特許を導入するに当たっては、同社が独自に策定した「特許導入評価基準」により判断しており、特許の有用性、実用化の可能性、市場性等の各項目について評価し、一定の点数以上のものだけを導入して特許ポートフォリオに加えていくといった手法を採っている。導入した特許等は、国際出願時、審査請求時等において再評価し、特許ポートフォリオに保持しておくか否かの見直しを行っており、これまで同社が許諾を受け保有している特許等は、約115ファミリー（約390件）に及んでいる。

2. 明確なライセンスポリシーの策定・運用により特許等を幅広くライセンス

同社は、iPS細胞研究の成果である特許等を幅広くライセンスするため、①非営利機関は、学術研究又は教育目的といった非商業目的で実施する場合に限り、知的財産を無償で利用することができる、②営利機関に対しては、適正かつ合理的な対価を設定し、原則として非独占的ライセンスを許諾する（なお、iPS細胞応用に係る知的財産については、一定の条件を満たす場合、例外的に独占的ライセンスを設定することがある）、といった内容を含むライセンスポリシーを制定し、これを運用している。

また、同社が独自に策定した「ライセンスアウトプログラム」により、目的用途をカテゴリー別にチャート化した客観的な基準を設け、ライセンスを希望するユーザーが自己の計画に合わせてどのライセンスプログラムが適当なのか、対価はいくらになるのかなど、事前に検討できるようにし、透明性を高めている。

こうした取組の結果、iPS細胞の基本特許が日本で成立してから、2015年9月現在で内外の製薬企業や食品企業等約150社にライセンスを実施するに至っており、今後も増加す

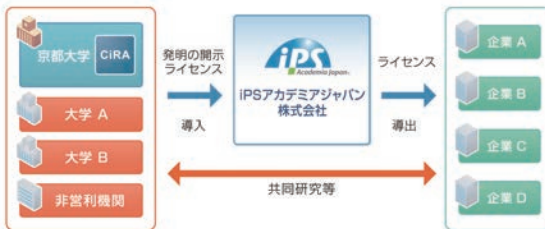
ることが期待される。

3. 展示会への出展や企業団体への参画など関係機関との連携により更なる普及を目指す

知財管理・運用については、常勤者8名のうち7名が関与している。メンバーは、企業で知財10年、ライセンス10年の経験者をはじめ、新薬会社の知財部長を務めていた者、総合電機企業の知財部経験者など、ライセンスビジネスに長けた経験者がビジネスを回している。

また、バイोजパンや欧米のバイオ関連展示会には毎年出展しており、バイオ関連の企業団体を通じて情報収集・発信を行っている。今後益々、関係機関との連携を図りiPS細胞関連技術の更なる普及に努めていく方針である。

【iPSアカデミアジャパン株式会社の事例】



▲特許ライセンス事業関係図



▶特許ライセンス契約実績

●会社概要

名称及び代表者	iPSアカデミアジャパン株式会社 代表取締役社長 白橋 光臣		
本社所在地	京都府京都市左京区吉田本町36番地1 京都大学国際科学イノベーション棟 東館207		
資本金	3億円	従業員数	8名
事業内容	iPS細胞等にかかる特許発明の実施許諾事業、iPS細胞関連特許情報の提供など		
電話番号	075-754-0625		
URL	http://www.ips-cell.net/j/index.php		

株式会社東洋新薬（福岡県福岡市）

＝天然素材が持つ可能性とサイエンスの融合で創造性豊かな商品づくりに挑戦し続けるODMメーカー＝



- 機能性素材の研究開発から販売支援までをトータルにサポートするODMメーカー
- トクホ、機能性表示食品の開発と連動した機能性素材の開発
- 機能性素材「フラバンジェノール®」のブランド戦略

1. 機能性素材の研究開発から販売支援までをトータルにサポートするODMメーカー

株式会社東洋新薬は、健康食品、化粧品などのODM（Original Design Manufacturing）メーカーである。製造だけを受託するOEMと異なり、機能性素材の研究開発から販売支援に至るまでトータルにデザインして取引先をサポートするODMという新しいビジネスモデルを展開している。

取引先の要望を的確に捉えて具現化すること、そしてその結果として、他社が真似のできない差別化された商品を取引先とともに世の中に送り出すこと、それがミッションであると同社は考えている。このミッションのため、創業当時より、知的財産の活用を経営戦略の1つとして位置づけ、知的財産活動に取り組んできた。同社では知的財産管理に精通した専門部署を設置し、ネーミングの商標登録や処方技術の特許出願・管理などを推進することによって、同社のみならず取引先の権利を守るほか、第三者の権利を侵害しないように対策を講じている。

2. トクホ、機能性表示食品の開発と連動した機能性素材の開発

同社は、トクホ（特定保健用食品）許可取得数No.1の企業である。人々の美と健康のために創造性豊かな商品を生み出すという企業理念を具体化する活動の一環としてトクホ商品の開発に取り組み、2005年にはトクホ許可取得数で日本一となった。現在のトクホ許可取得数は272件（2015年10月時点）であり、他の追随を許さぬトクホ開発体制を構築している。

また、トクホ許可取得数No.1のノウハウを生かし、2015年4月よりスタートした「機能性表示食品」の開発にも積極的に取り組んでいる。その一例として、「葛の花エキス」に含まれる葛の花由来イソフラボンを機能性関与成分とする、機能性表示食品を紹介する。

「葛の花エキス」とは、葛の花部から抽出したイソフラボンやサポニンを含む機能性素材である。同社はこの素材の研究に長年取り組んでおり、抗肥満作用に関する特許を取得している。この特許により、他社が模倣できないオリジナリティの高い機能性表示食品の開発が可能となっている。また、機能性表示食品の商品名も商標登録し、商標の面においても他社の模倣を防止している。

3. 機能性素材「フラバンジェノール®」のブランド戦略

同社は、自社で開発した機能性素材のブランド化にも積極的に取り組んでいる。その一例として、「フラバンジェノール®」を紹介する。

「フラバンジェノール®」とは、フランス南西部ランド地方に育成する海岸松の樹皮か

ら抽出した天然由来の機能性素材である。「フラバンジェノール®」の名称だけでなくブランドロゴも商標登録するとともに、海外進出を見据え、39カ国において商標権を取得している。また、普通名称化防止のため、広告などにおいて登録商標マーク（Rマーク）や帰属表示の付記を徹底するとともに、辞書や第三者のホームページも調査し、普通名称化を促進する記載に対して修正を依頼するといった対策を講じている。このような対応によってブランド化を推進し、「フラバンジェノール®」を配合した化粧品「Flavia®」シリーズ（株式会社フォーマルクライン）など、様々な商品を展開している。

【株式会社東洋新薬の商品例】



▲ 東洋新薬の機能性表示食品ラインナップ



▶ 「Flavia®」シリーズ
（株式会社フォーマルクライン）

●会社概要

名称及び代表者	株式会社東洋新薬 代表取締役 服部 利光		
本社所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前 2-19-27		
資本金	5,000万円	従業員数	660名
事業内容	健康食品・機能性食品、トクホ商品、医薬品、化粧品及び医薬部外品の受託製造・販売、研究・開発		
電話番号	092-411-3555		
URL	http://www.toyoshinyaku.co.jp/		